

# 1 広域計画の改定にあたり

## (1) はじめに

この津軽広域連合広域計画（以下「広域計画」という。）は、弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、板柳町、大鰐町、田舎館村及び西目屋村（以下「関係市町村」という。）からなる圏域（以下「圏域」という。）における広域行政推進の施策を明らかにするため、津軽広域連合（以下「広域連合」という。）が処理する事務並びに関係市町村が、相互に連絡調整を図りながら処理することが適当な事務について定めるものであり、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 291 条の 7 の規定に基づき策定するものです。

広域連合は、広域計画に基づき、関係市町村とこれまで以上に連携し、広域連合が行うべき事務事業を効率的に実施し、関係市町村が持つ豊かな自然や歴史的、文化的資源を活かし、魅力あふれるまちづくりの実現と福祉の向上をめざします。

## (2) 圏域の概要

圏域は、青森県西南の内陸部に位置し、その総面積は約 1,598k m<sup>2</sup>で、県全体の約 17%を占めています。

西には霊峰岩木山、東には八甲田連峰、南には秋田県境に接する世界自然遺産の白神山地があります。白神山中に源を発する岩木川は圏域内で平川及び浅瀬石川と合流し、その流域には肥沃な津軽平野が広がり、青森県を代表する穀倉地帯を形成しています。

また、平野部周辺の丘陵地帯には、基幹農産物であるりんごの樹園地が広がり、さらにその地域を取り巻くように山林地帯が伸び、緑豊かな自然環境に恵まれています。

関係市町村毎の面積等及び特性は次のとおりとなっております。

関係市町村別面積・人口・世帯数

区分	面積 (k㎡)	平成22年(2010年)		平成27年(2015年)		令和2年(2020年)	
		人口 (人)	世帯数	人口 (人)	世帯数	人口 (人)	世帯数
弘前市	524.20	183,473	70,142	177,411	71,152	168,466	71,022
黒石市	217.05	36,132	11,794	34,284	11,770	31,946	11,661
平川市	346.01	33,764	10,063	32,106	10,129	30,567	10,049
藤崎町	37.29	16,021	4,912	15,179	4,942	14,573	4,965
板柳町	41.88	15,227	4,770	13,935	4,680	12,700	4,476
大鰐町	163.43	10,978	3,648	9,676	3,421	8,665	3,228
田舎館村	22.35	8,153	2,406	7,783	2,382	7,326	2,401
西目屋村	246.02	1,594	570	1,415	488	1,265	437
圏域計(A)	1,598.23	305,342	108,305	291,789	108,964	275,508	108,239
県計(B)	9,645.10	1,373,339	513,385	1,308,265	510,945	1,237,984	511,526
構成比 (A/B)	16.6%	22.2%	21.1%	22.3%	21.3%	22.3%	21.2%

※ 面積：国土地理院発表（令和6年1月1日）

※ 人口及び世帯数：平成22年、平成27年及び令和2年の国勢調査

## 関係市町村の特性

### 1 弘前市

弘前市は、圏域の西部に位置し、津軽のシンボルである霊峰岩木山など豊かな自然に恵まれた都市です。桜の名所である弘前城をはじめ、藩政時代のたたずまいを残す寺院街や伝統建造物、明治・大正期の洋風建築、昭和期の前川建築などの歴史的文化財が数多く点在し、四季を通して多くの観光客が訪れています。

また、JR 弘前駅を核とした広域的な交通拠点となっているほか、弘前大学などの高等教育機関、弘前大学医学部附属病院などの高度医療施設、ホテルを中心とした宿泊・コンベンション機能、飲食街など、都市的な環境が備わっています。

産業面では、日本一の生産量を誇るりんごや嶽高原の冷涼な気候が育む嶽きみなど、全国的に有名な農産物の生産を中心とする農業や津軽塗をはじめとした伝統工芸産業のほか、弘前大学や試験研究機関を核とした医療・健康・福祉関連産業や先端技術産業の成長が期待されています。

そのほか、圏域の市町村が相互に連携・協力することにより、自立的・持続的な地域づくりを目指す定住自立圏構想においては、弘前圏域定住自立圏の中心市として中核的な役割を担っています。

### 2 黒石市

黒石市は、圏域の東部に位置し、重要伝統的建造物群保存地区内にある「こみせ」などの観光資源を多数有しており、古くから「水清く人情のあつい あずましの里」として栄えてきたまちです。国道 102 号や東北自動車道黒石インターチェンジを擁しているほか、青森空港や東北新幹線新青森駅まで車で約 30 分とアクセスにも優れていることから、交通の要衝を担っています。

また、圏域の中心都市である弘前市の機能を補完する役割を持ち、青森県産業技術センター農林総合研究所、同りんご研究所を中心に農業技術集積の地として重要な役割を果たしています。

近年は、当市の強みである町内会等で構成する地区協議会などが課題解決等を通じて、地域の価値や活力を高めていく総合的な住民の力のことを「黒石力(くろいしりょく)」と位置づけ、その強みや多くの地域資源を最大限活かすことで、全ての市民が安心して暮らすことができるようになり、子どもたちが夢を持って成長していくことができるまちづくりに取り組んでいます。

### 3 平川市

平川市は、圏域の南東部に位置し、自然とまちの風景が調和する景観の美しいまちです。山々に抱かれた平野部には、市名の由来である「平川」の恵みを受ける田園風景、それを取り巻く丘陵地帯には赤や黄色に色づくりんごの園地が広がります。

また、優れた効能・豊富な湯量を誇る「温泉」が点在し、全国からファンが訪れています。夏の風物詩である「平川ねぷたまつり」のトリを飾る、高さ約 12m の「世界一の扇ねぷた」、和洋折衷の建物と美しい庭園が融合した「盛美園」、品評会で最高賞の農林水産大臣賞を受賞した“りんご”、果汁が多く深い甘味を持つ“津軽の桃”など数多くの地域資源に恵まれており、これらを活かした活性化を目指しています。

近年は、住宅取得支援などの移住・定住施策、学校や子育ての環境充実などを進め、目指す将来像である「あふれる笑顔 暮らし輝く 平川市」の実現に向けてまちづくりに取り組んでいます。

### 4 藤崎町

藤崎町は、圏域のやや北部に位置し、県内主要都市に近く、さらに国道 7 号や 339 号が通り、JR 奥羽本線北常盤駅や JR 五能線藤崎駅を擁するなど、交通の利便性も兼ね備えていることから、宅地として人気があるだけでなく、企業誘致にも適しており、大きな発展の可能性を持ったまちとなっています。

産業の基盤は農業であり、岩木川、平川、浅瀬石川の三大河川が合流する肥沃な土壌を活かして、りんご「ふじ」発祥の地、また、良質な米の生産地という誇り高い農業のまちとして発展してきました。現在では、高い品質を誇る「ときわにんにく」、飼料米を与えて育てられた鶏が産む「こめたま」やアスパラガスなどの多様な特産品が生産されているほか、環境に優しい地産地消体制の促進や新たな食の魅力の創生、地域 6 次産業化の推進にも力を入れています。

### 5 板柳町

板柳町は、圏域の北部に位置し、青森県内でも早くからりんご栽培を取り入れ、明治期には、りんごを新しい産業とした新文化が発展した歴史的な経緯のあるまちです。

りんご産業と観光的要素を持つ「ふるさとセンター」を中心に高付加価値農業の推進と体験型観光農業の振興を図るとともに、平成 14 年には、安全安心なりんご生産を目的に「りんごまるかじり条例」を制定するなど、「りんごの里板柳」を目指したまちづくりに取り組んでいます。

また、国際化・情報化など新たな時代を担う人づくりとして、読書を通じた人づくりを中心に、町民と行政とが共に考え、実行していく「協働のまちづくり」を推し進めています。

## 6 大鱔町

大鱔町は、圏域の南部に位置し、三方を山で囲まれた街並には津軽の奥座敷の風情が漂います。国際大会も開催される大鱔温泉スキー場や、開湯 800 年を誇る温泉の町として、圏域住民のみならず、県内外の方から休養地・保養地として親しまれ、温泉とスキーによる観光を中心に発展してきました。

町の基幹産業は農業であり、全国的にも知名度が高まっている「大鱔温泉もやし」をはじめ、大鱔高原りんごや米、トマトなどが栽培されています。町内の農家や観光事業者等と連携して、これら特産品の販路拡大を図り、全国に町の魅力を発信しています。

近年では、6 次産業化など地域資源の付加価値を高める取組や、地域資源を活用した交流人口を増やすための取組にも力を注いでいます。

自然、文化、歴史、産業、人材など、地域のあらゆる資源を活かし、交流を振興することで、「わになって みんなポカポカ 大鱔町」の魅力をさらに高めるまちづくりを進めています。

## 7 田舎館村

田舎館村は、圏域のほぼ中央の平野部に位置し、約 2100 年前の弥生時代から稲作が行われていた、稲作文化において歴史のある村です。

その稲作にちなんで、毎年田んぼをキャンバスに見立て、色の異なる稲を使って絵を描く「田んぼアート」を制作しています。近年は、国内はもちろん海外でも話題となり多数の見学者が村を訪れます。現在 2 ヶ所ある田んぼアートと道の駅、埋蔵文化財センターなどと連携し観光振興を図っています。

歴史ある稲作は、現在も引き継がれ村の基幹産業となっており、近年は良食味米の生産に力を注いでいます。

また、これまで勧めてきた企業誘致の結果、工業団地には優良企業が数多くあり、その優れた技術と村で生産される豊かな農産物を活かしながら、歴史と文化に触れることができる交流人口の豊かな村づくりを目指しています。

## 8 西目屋村

西目屋村は、圏域の最西部に位置し、津軽地域の主要水源である岩木川の源流域にあたり、広大で原生的なブナ林をいただく白神山地と東北でも有数の大きさを誇る津軽ダム（津軽白神湖）を抱える村です。

米とりんごを中心とする農業が基幹産業ですが、近年、米の生産調整で転作地に作付けしているそば・大豆をブランド化し、商品開発に取り組んでいます。

津軽ダム・津軽白神湖を活用して、水陸両用バスの運行やダム見学ツアーなど、ダムツーリズムを推進する村として、白神山地をはじめとする貴重な地域資源を活かし「白神山地と津軽ダム」「親から子へつなぐ 悠久の森 源流の里 にしめや」の魅力向上を図っています。

また、村の重要課題である人口減少対策として、道路融雪機能を完備した土地代無料の住宅団地の整備や高校 3 年生に相当する年齢までの医療費の所得制限なしの無料化、0 歳児以上の保育料及び妊産婦健診を無料化するなど安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推し進め、若者世代の移住・定住を促進しています。

### (3) 津軽広域連合の沿革

昭和 45 年	津軽地域広域市町村圏協議会（14 市町村）設立
平成	
9. 5.23	津軽地域広域市町村圏協議会総会にて圏域 14 市町村長が広域連合設立をめざすことを決議
9. 8. 6	14 市町村長が津軽広域連合設立に合意、ふるさと市町村圏基金の造成を決議
9.12.22	14 市町村議会が同日までに広域連合設立を議決
9.12.24	14 市町村長が津軽広域連合設置協議書に調印・締結
9.12.25	津軽地域広域市町村圏協議会廃止届、津軽広域連合設立を県知事に申請
10. 1.31	津軽地域広域市町村圏協議会廃止
10. 2. 1	津軽広域連合設立（県知事より津軽広域連合設立許可）
10. 3.20	ふるさと市町村圏に選定
10. 6. 8	津軽広域懇談会設置
10.12.24	平成 10 年第 2 回津軽広域連合議会定例会において津軽広域連合広域計画承認
11. 2.16	津軽広域連合規約の一部変更についての県知事許可、広域計画公表
11. 3.25	平成 11 年第 1 回津軽広域連合議会定例会において津軽地域ふるさと市町村圏計画承認
11. 8. 4	津軽広域情報拠点都市地域研究会設立総会
11.10. 4	介護認定審査会による審査判定業務の開始
11.12.20	キャッチフレーズ・ロゴマーク決定
12. 2. 1	公式ホームページ開設
12. 6. 1	広域的地域情報通信ネットワーク整備促進モデル構築事業により東北電気通信管理局長から表彰を受ける（H18.8.31 事業終了）
12. 7. 5	地域経済基盤強化推進地域に選定
13. 1.19	市町村広報紙上交流委員会発足
13. 5.24	全国ふるさと市町村圏協議会東北支部協議会総会を弘前市で開催
13.10.11	全国ふるさと市町村圏シンポジウム 2001in 津軽開催
14. 4. 1	公共施設予約システム稼働
15.10.31	地域経済活性化対策推進地域に選定
17. 3.28	藤崎町と常盤村が合併し、藤崎町として加入
17. 3.31	青森市との合併により、浪岡町脱退
18. 1. 1	平賀町、尾上町及び碓ヶ関村が合併し、平川市として加入
18. 2.27	弘前市、岩木町及び相馬村が合併し、弘前市として加入
18. 3.28	津軽地域ふるさと市町村圏計画（後期計画）策定
18. 5. 9	平成 18 年第 1 回正副広域連合長会議において、ふるさと市町村圏基金について国債による資金運用を決定（運用開始日：H18.7.4）
18. 7.25	障害程度区分判定審査会による審査判定業務の開始

- 18. 8.24 特定地域経済活性化対策推進地域の選定を受け、同活性化計画を策定
- 21. 9.24 地域力創造推進地域に選定(H21~H23)
- 22. 1.12 津軽広域連合規約の一部変更についての県知事許可、津軽地域ふるさと市町村圏計画は計画期間の満了(H22.3.31)をもって廃止
- 22. 2.17 平成 22 年第 1 回津軽広域連合議会定例会において、津軽広域ふるさと市町村圏基金の名称を津軽広域活動推進基金へ変更することを承認
- 22. 3. 5 広域活動計画を策定 (H22~H26)
- 22.11.30 公共施設予約システムの稼働を終了
- 23. 8. 1 事務所を弘前市役所樋の口分庁舎から弘前市役所岩木庁舎へ移転
- 24.10.10 地域力創造推進地域に選定 (H24~H26)
- 25. 7.27 事務所を弘前市役所岩木庁舎からヒロロスクエア(駅前町)へ移転
- 26. 4. 1 障害程度区分判定審査会が障害支援区分判定審査会に移行
- 27. 1. 8 津軽広域連合規約の一部変更についての県知事許可、広域計画の改定に伴う規定等の整理
- 27. 1.14 フェイスブック、ツイッター開設
- 27.10.13 津軽広域連合規約の一部変更についての県知事許可、処理する事務にし尿等希釈投入施設の設置及び管理運営を追加
- 28. 4. 1 し尿等希釈投入施設「津軽広域クリーンセンター」の管理運営業務の開始  
令和
- 2. 2.14 ホームページをリニューアル
- 3. 2. 1 インスタグラム開設

#### (4) 広域計画の期間及び改定に関すること

この広域計画の期間は、令和 7 年度から令和 11 年度までとするほか、その後 5 か年単位として見直しを行うものとします。ただし、津軽広域連合長が必要と認めるときは、随時改定を行うものとします。